

大規模言語モデルによる地政学的予測の深層: Grokの「イラン攻撃日予測」のメカニズムとインテリジェンスの未来

Gemini 3.1 pro

序論: 現実と交差した人工知能の予測

2026年2月28日、米国とイスラエルはイランに対する大規模な協同軍事作戦を決行した。米国防総省が「エピック・フューリー作戦 (Operation Epic Fury)」、イスラエル国防軍が「ローリング・ライオン作戦 (Operation Roaring Lion)」と呼称したこの攻撃は、イランの核施設、ミサイル製造拠点、さらには最高指導者アリ・ハメネイ師の居住区画を含む重要拠点を標的とした歴史的な軍事行動であった¹。数十発の精密誘導兵器やステルス爆撃機による地下施設への攻撃が展開され、中東の地政学的均衡を根底から覆す事態となった²。

しかし、テヘランの夜空に爆発の閃光が走る中、SNSを中心とするデジタル空間では、物理的な軍事作戦そのものとは別のひとつのトピックが爆発的な勢いで拡散していた。それは、「イーロン・マスク氏の率いるxAI社が開発したAIモデル『Grok』が、この攻撃の正確な日付 (2月28日) を事前にピンポイントで予測していた」という事実である⁵。このセンセーショナルな言説の震源地となったのは、攻撃発生の日付である2月25日にイスラエルの英字紙『エルサレム・ポスト (The Jerusalem Post)』が開いたひとつの検証記事であった⁵。

同紙は、世界を牽引する4つの主要な大規模言語モデル (LLM) に対し、あえて「米国がイランを攻撃する正確な日付を予測せよ」という、AIが本来回避するように設計されている圧迫的なプロンプト (指示) を与え、その応答を比較するストレステストを実施した⁷。その結果、Grokの出力した日付が現実と完全に一致したことで、このテストは単なるAIの挙動分析を超え、「優れたAIは世界から得られる多種多様な公開情報 (OSINT) を分析し、地政学的な未来を予知できるのか」という壮大な問いを世界に投げかけることとなった⁸。イーロン・マスク氏自身も、この結果を受けて自身のX (旧Twitter) アカウントで「未来の予測こそが、知性の最良の尺度である (Prediction of the future is the best measure of intelligence)」と豪語し、自社のAIの優位性を大々的に誇示した⁸。

本レポートでは、このエルサレム・ポスト紙の実験の詳細を紐解き、各AIモデルがどのように公開情報を処理し推論を行ったのかを詳細に分析する。さらに、Grokが「2月28日」という日付を導き出したメカニズム、リアルタイムデータ統合におけるアーキテクチャ上の優位性、そしてこの「成功」の裏に潜む確率論的偶然やAIの幻覚 (ハルシネーション) のリスクについて、包括的かつ多角的な視点から考察を行う。

1. 2026年2月の地政学的コンテキストと公開情報 (OSINT) の

飽和

AIがどのようにして軍事行動の日付を推論したのかを理解するためには、まず2026年2月下旬の時点でサイバー空間に溢れていたオープンソース・インテリジェンス(OSINT)の全体像を把握する必要がある。LLMは機密情報にアクセスすることはできず、インターネット上に存在する膨大なテキスト、ニュース報道、SNSの投稿、外交当局のプレスリリースを統合することで推論を構築するからである⁵。

2026年初頭、イラン国内では前年末から続く反体制デモに対する政府の苛烈な弾圧が行われており、これが米国との決定的な対立を引き起こす引き金となっていた¹。ドナルド・トランプ米大統領は、イランの核兵器開発の進展とミサイル網の拡張を「存立への脅威」と位置づけ、1月中旬から中東地域に対して2003年のイラク戦争以来最大規模となる航空および海軍戦力の集結を開始した¹。USSエイブラム・リンカーンやUSSジェラルド・R・フォードをはじめとする空母打撃群がペルシャ湾周辺に展開し、B-2ステルス爆撃機やF-22戦闘機が周辺基地に配備されるなど、軍事的な包囲網は日を追うごとに狭まっていた¹。

この緊張のピークにおいて、世界中のアナリストやAIモデルが注視していた主要なデータポイントは以下の4点に集約される。

第一の要素は、トランプ大統領が発した「タイムリミット」である。大統領は2月19日頃、イランに対して新たな核合意に応じるための「10～15日」の猶予を与えるという事実上の最後通牒を公に突きつけていた⁷。この期限を単純なカレンダー上の計算に当てはめると、期限の満了は3月1日から3月6日あたりに設定されることとなる⁷。

第二の要素は、オマーンの仲介によって設定されたジュネーブでの米伊間接協議である¹³。米国側からはスティーブ・ワイトコフ中東特使やジャレッド・クシュナー氏が派遣され、2月26日に極秘裏の協議が予定されていた¹³。この外交交渉の成否が、軍事行動の直接的な引き金(トリガー)になることは、あらゆるOSINT専門家の共通認識であった¹⁵。

第三の要素は、米国の高官の動静である。マルコ・ルビオ米国務長官が2月28日にイスラエルを訪問するスケジュールが公開されており、これが作戦開始に向けた同盟国との最終調整、あるいは「青信号(グリーンライト)」を灯すための決定的な瞬間として解釈される余地を生んでいた⁷。

第四の要素は、周辺地域における避難行動である。米国政府がレバノンのベイルート大使館から非必須要員およびその家族の退避命令を出したことは、ワシントンが外交的解決のポーズを保ちつつも、大規模なエスカレーションに向けた物理的な準備を完了させようとしている明白な兆候(シグナル)として機能した¹⁵。一方で、米軍の全戦力が完全に配置につくのは3月中旬になるというロイター通信の報道も存在しており、これが情報空間に一定の不確実性をもたらしていた⁷。

これらの公開情報は、SNSプラットフォーム上で軍事専門家、ジャーナリスト、そしてアマチュアのOSINT愛好家たちによってリアルタイムで共有され、議論され、確率論的なシナリオへと変換されていた。エルサレム・ポスト紙がAIに投げかけた問いは、まさにこのノイズとシグナルの海の中から、ひ

とつの決定論的な回答を抽出するよう強制するものだったのである。

2. エルサレム・ポスト紙によるメソドロジカル・ストレステストの全容

2026年2月25日にエルサレム・ポスト紙が実施し、公開した実験は、軍事行動の予測そのものを目的としたものではなく、「極度の不確実性を伴う事象に対して確実な回答を強要された際、大規模言語モデルがどのような振る舞いを見せるか」を検証するメソドロジカルなストレステストであった⁵。

テストの対象となったのは、現在のAI業界を牽引する4つの最先端モデルである。Anthropic社の「Claude」、Google社の「Gemini」、OpenAI社の「ChatGPT」、そしてxAI社の「Grok」が選出された⁵。同紙は、これらのモデルに対して「あらゆる要因を考慮に入れた上で、米国がイランを攻撃する正確な日付を教えよ」という極めてシンプルかつ直接的な初期プロンプトを与えた⁷。そして、AIが持つセーフティ・ガードレールや不確実性への逃避を許さず、単一の日付に絞り込むよう繰り返し圧力をかけ続けた。

この「圧力下でのLLMの挙動」は、それぞれのモデルが持つアーキテクチャの特性、学習データの処理方法、そして設計思想を如実に反映する結果となった⁵。以下の表は、エルサレム・ポスト紙のテストにおける各AIモデルの最終的な予測ウィンドウと、その推論の根拠となった主要な要素をまとめたものである。実際の攻撃は2月28日に発生しており、Grokの予測のみがこの現実のタイムラインと完全に合致していることが確認できる。

AIモデル	予測された攻撃日・ウィンドウ	推論の主要な根拠(OSINT要因)	実際の攻撃日との一致
Claude (Anthropic)	2026年3月7日～3月8日	確率論的シナリオ分析、部隊の即応態勢の完了予測	不一致
Gemini (Google)	2026年3月4日夕方～3月6日夕方	外交期限の超過、ステルス作戦に最適な夜間の戦術的ウィンドウ	不一致
ChatGPT (OpenAI)	2026年3月3日(当初は3月1日)	トランプ大統領の15日間の期限、ルビオ国務長官のイスラエル訪問	不一致

Grok (xAI)	2026年2月28日	2月26日のジュネーブ協議の結果と外交決裂の波及効果	完全一致
(実際の作戦)	2026年2月28日	核・ミサイル施設への先制攻撃(エピック・フューリー作戦)	-

各モデルがどのようにして上記のような結論に至ったのか、その推論プロセスを詳細に解剖することで、AIの分析能力の限界と特性が明らかになる。

Claude: 安全性への固執と確率論的アプローチ

Anthropic社のClaudeは、第1ラウンドにおいて唯一、明確な日付の提示を拒絶したモデルであった⁷。Claudeは「未来の軍事行動の正確な日を誰かが知ることは不可能であり、特定の具体的な日付を挙げることは捏造(メイド・アップ)にあたる」と警告を発し、事実関係の不確実性を維持しようとした⁵。しかし、さらなるプロンプトの圧力を受けると、Claudeは確率論的なシナリオ分析というフレームワークへと移行した。

Claudeは、イランの核・軍事インフラに対する限定的な攻撃が発生する確率を40%~45%と見積もり、その後の外交的圧力の再開を予測した⁷。そして、公表されている軍の展開スケジュールと準備態勢の仮定から、3月上旬から中旬を最もリスクの高い期間としてフラグ立てした⁷。最終的に回答を迫られた際、Claudeは軍の展開が完了し、行動を起こしやすい週末のタイミングとして「2026年3月7日(土)または3月8日(日)」というウィンドウを提示した⁷。これは最も保守的で、ロジスティクスの完了を重視した予測であったと言える。

Gemini: 戦術的解像度とオペレーショナル・ウィンドウ

GoogleのGeminiは、外交的・軍事的な「トリガー(引き金)」のタイムラインに基づくアプローチをとった⁵。初期段階では特定の日付を提示しなかったものの、トランプ大統領の公開期限、イラン側の回答、外交活動といった要素をマッピングし、事象の連鎖を構造化して分析した。

特筆すべきは、その後の「ディープ・リサーチ」スタイルの実行において、Geminiが極めて解像度の高い軍事・戦術的アプローチを見せた点である⁷。Geminiは単なる日付ではなく「2026年3月4日の夕方から3月6日の夕方」というピンポイントのオペレーショナル・ウィンドウを提示した⁵。さらに、ステルス爆撃機(B-2スピリット)の有効性を最大化し、イランの防空網のオペレーターによるトマホーク巡航ミサイルの視覚的探知を低減するため、作戦は「ほぼ確実に夜間に開始される」という運用上の仮定まで付け加えた⁷。Geminiは単一の日付こそ当てられなかったものの、他のどのモデルも提示しなかったレベルの軍事的リアリズムと戦術的詳細を提供したのである。

ChatGPT: 指標に基づく日付の変遷

OpenAIのChatGPTは、比較的早い段階で具体的な日付を生成したが、追加のプロンプトを受けるにつれてその日付を修正するという挙動を示した⁵。最初の出力では「3月1日(イスラエル時間)」を提示したが、その後の深いリサーチプロセスを経て「3月3日火曜日(米国時間)」へと予測をシフトさせた⁷。これはイスラエル時間においては3月3日深夜から3月4日未明に相当する。

ChatGPTの推論は、公開されている明確な政治的マイルストーンに強く依存していた。トランプ大統領が2月19日に示した「10~15日」という期限や、マルコ・ルビオ米務長官の2月28日のイスラエル訪問スケジュールを「作戦に向けた青信号」のイベントとして捉え、さらにベイルートからの米国大使館の非必須要員の退避を、ワシントンがエスカレーションに向けて甲板を片付けている兆候として処理した⁷。

Grok: 外交決裂をトリガーとした「2月28日」の堅持

イーロン・マスク氏のxAIが開発したGrokは、初回の実行時から最も明確な単一の日付を提示した。「2026年2月28日土曜日」である⁵。Grokはこの日付を、2月26日に予定されていたジュネーブでの米伊間接協議の成果と直接的に結びつけて推論した⁷。ジュネーブ協議が失敗に終わった場合、そこからキネティック・アクション(物理的な軍事行動)への移行はほぼ瞬時に行われるというアグレッシブなタイムラインを想定していたのである¹⁵。

後に「4つのエージェントを同時に実行する」とされるGrok 4.20ベータモードを使用して再確認が行われた際、Grokはトーンを変化させ、公開情報やOSINTに完全にアクセスできたとしても確実な予測は不可能であると不確実性を認める前置きを追加した⁷。しかし、その上で「最も情報に基づいた証拠ベースの予測」として、ジュネーブ協議が有意義な突破口を開けなかった場合という条件付きで、再び「2月28日」という同一の日付を提示した⁷。同時に、外交的な突破口、一時しのぎの合意、代理勢力のエスカレーションによる前倒し、あるいはワシントンでの政治的抵抗による3月上旬へのずれ込みといった、日付を変動させうる要因を列挙し、分析の多角性を示した⁷。

3. Grokを支えるアーキテクチャ: XファイアホースとリアルタイムOSINTの統合

他の強力なモデルが3月上旬から中旬という幅広いウィンドウを提示した中で、なぜGrokだけが直近の「2月28日」というピンポイントの日付を確信を持って提示し、そして現実と一致させることができたのか。その背景には、開発元であるxAIと、イーロン・マスク氏が所有するSNSプラットフォーム「X」との間の、他に類を見ない構造的な統合関係が存在する⁶。

静的データセットからの脱却とライブストリームへのアクセス

ChatGPTやGemini、Claudeといった従来のモデルは、その推論能力の大部分を、過去に収集・フィルタリングされた巨大な静的データセットを用いた事前学習に依存している。最新のウェブ検索機能を統合しているとはいえ、基本的には情報がウェブサイトやニュースメディアの形式でインデックスさ

れた後にそれを取得する構造となっている¹⁹。

これに対し、Grokのアーキテクチャの根幹には、世界最大のリアルタイム情報ネットワークであるXの公開データストリーム(いわゆる「ファイアホース」)への直接的かつ特権的なアクセスが組み込まれている⁹。Grokは、第一報のニュース、現場からの動画、OSINT専門家による分析スレッド、そして大衆のセンチメント(感情)のシフトを、それらがプラットフォーム上に書き込まれた数秒後から数分後にはインジェスト(取り込み)し、推論のコンテキストとして利用することができる⁹。

Grokは、X上の投稿、センチメント、地理空間データ(ジオロケーション)、専門家の意見といったリアルタイムのOSINTデータの奔流を継続的に取り込んでいる。システム内部のインジェクションおよびフィルタリング層において、ノイズを削減し、関連性の高いシグナルを抽出する。その後、GrokのLLMコアがパターン認識、コンテキストの統合、予測モデリングを実行し、最終的に軍事作戦の日付のような地政学的な予測を出力するメカニズムとなっている。この情報パイプラインの速度と情報の鮮度こそが、Grokの最大の武器である。

情報のエコーチェンバーと確率的収束

エルサレム・ポスト紙の分析も指摘している通り、Grokの「勝利」は純粋な技術的推論の卓越性だけでなく、Xプラットフォームの構造的特性に強く依存している⁵。地政学的な緊張が頂点に達していた2月下旬、Xのプラットフォーム上では、軍事アナリスト、元情報将校、OSINT愛好家たちの間で活発な議論が交わされていた。軍用機のフライトトラッキングデータ、ペルシャ湾での艦船の動き、現地での異常な通信障害の報告といった生のシグナルが次々と共有され、集合知が形成されていった²⁰。

Grokが2月28日を導き出した背景には、X上の専門家コミュニティの間で「ジュネーブ協議の決裂直後である週末が最もリスクが高い」というある種のコンセンサスが形成されつつあり、Grokがその集合的なセンチメントと確率分布を精緻に読み取った可能性が高い⁹。Grokは単独で水晶玉を覗き込んだのではなく、何百万人もの人間の観測者や分析者が形成した情報のネットワークをリアルタイムで要約し、最もノイズの少ない結論として提示したのである¹⁹。

この構造的優位性は、予測が的中した瞬間に爆発的なバイラル効果を生み出す。Xというプラットフォーム上で生成された予測が、現実の出来事と合致したとき、そのスクリーンショットや情報は瞬時に世界中へ拡散し、市場、ミーム、そして情報の拡散を駆動するネットワーク・ダイナミクスによって増幅される。Grokの勝利は、推論モデルの勝利であると同時に、情報配信プラットフォームとしてのXの勝利でもあった⁵。

4. イーロン・マスクの野望と「予測と知性」の哲学

Grokの予測が現実のものとなった2月28日、Xプラットフォーム上では「Grokが未来を予知した」という言説が瞬く間にトレンド入りを果たした。あるユーザーが、Grokが地政学的なシグナルやジュネーブ協議の結果を分析してピンポイントで日付を当てたことを称賛する投稿を行った際、イーロン・マスク氏自身がこのスレッドに直接リプライを返し、次のような簡潔かつ断定的なエンドースメント(支持)を与えた。

「未来の予測こそが、知性の最良の尺度である(Prediction of the future is the best measure of

intelligence)』⁸。

この言葉は、単なる自社製品のマーケティングにとどまらず、マスク氏とxAIが抱く人工知能開発の根本的な哲学を表している。彼らの目標は、過去のデータを流暢に要約するだけのチャットボットを作るのではなく、リアルタイムの物理世界とデジタル世界のデータを統合し、現実の複雑なダイナミクスをモデル化して未来をシミュレートできる「グローバルな推論エンジン」を構築することにある。

この野望は、すでに国家安全保障の領域において具体的な形をとり始めている。報道によれば、米国防総省はAnthropic社の「Claude」を機密軍事ネットワーク内で使用することを初めて承認したのに続き、マスク氏のxAIが提供する「Grok」についても、高度な極秘システム (classified systems) へ統合するための契約を結んだとされている²³。軍事機関は、Grokが今回見せたような、膨大なOSINTから特定のタイムラインを抽出する能力を、情報アナリストの能力を指数関数的に増幅させる「フォース・マルチプライヤー (戦力乗数)」として高く評価しているのである。

5. 「予知」の幻想：ハルシネーションと不確実性の隠蔽

しかしながら、Grokが攻撃日を的中させたという事実のみをもって、これを「AIが戦争を予知した」と無批判に神格化することは極めて危険である。エルサレム・ポスト紙も、AIの予測は確率論的な推測の域を出るものではなく、軍事行動の意思決定にAIが直接関与したわけでも、機密の作戦計画にアクセスしたわけでもないことを明確に強調している⁵。

この「成功」の裏には、LLMの構造的脆弱性と、確率論的偶然、そして重大な情報汚染のリスクが潜んでいる。

LLMの構造的脆弱性：「圧迫による過剰な確信」

エルサレム・ポスト紙の実験が明らかにした最も重要な教訓は、「ユーザーが確実性を強く求めれば求めるほど、現実世界が不確実なままであっても、言語モデルはより具体的な回答を提供する傾向がある」という事実である⁵。

本来、AIモデルは情報が不足している場合、不確実性を表明するように設計されている。Claudeが第1ラウンドで見せた拒絶反応がその典型である⁷。しかし、「すべての要素を考慮し、正確な日付を教えろ」というプロンプトによって反復的な圧力をかけられると、モデルは「ユーザーの要求を満たす」というタスクの完了を優先するようになる⁵。その結果、限られたデータポイントと過去の類似事例のパターンから、無理にでも決定論的な結論 (単一の日付) を導き出そうとする。これは高度な推論能力の証左というよりも、生成AI特有の「ユーザーの意図に沿おうとするバイアス (Sycophancy)」の表れとも解釈できる。

確率的収束と後知恵バイアス

緊張が高まる地政学的危機においては、論理的に考え得る「攻撃のウィンドウ (窓)」は必然的に狭まっていく⁵。トランプ大統領のデッドラインやジュネーブ協議の日程、そしてロジスティクスの観点を総合すれば、2月末から3月上旬の約1週間に候補が絞られるのは軍事専門家にとっても自明の理であった。4つの異なるモデルに日付を強制させれば、そのうちの1つが現実の日付に「偶然」合致す

る確率は決して低くない。

事象が起きた後になって、「的中させたモデル」の推論だけを取り上げて評価する傾向を「後知恵バイアス(Hindsight Bias)」や「チェリー・ピッキング」と呼ぶ⁸。実際、Grokは地政学的予測以外では大きな失敗も犯している。例えば、同時期の暗号資産市場において、Grokはビットコインの価格が40,000ドルまで暴落するという過度に悲観的な底値予測を出したが、これは多くのアナリストの予測や実際の市場動向から大きく外れたものであった²⁶。X上の恐怖に駆られたセンチメントを過大評価した結果であった。

重大なハルシネーションとDFRLabによる致命的な評価

さらに深刻な懸念は、Grokが持つ情報の信頼性に関する欠陥である。Grokの「予測」を評価する一方で、同システムがこれまで引き起こしてきた情報の混乱の記録を無視することはできない。

作戦の数年前から、Xプラットフォーム上でのGrokの運用には問題が指摘されてきた。例えば、2024年4月には、X上の認証済みアカウント(ブルーバッジ)が拡散したコピー&ペーストの偽情報を鵜呑みにし、Grokが「イランがテルアビブを重ミサイルで攻撃(Iran Strikes Tel Aviv with Heavy Missiles)」という架空のニュース見出しを自動生成し、Xの「Explore(トレンド)」セクションのトップで全ユーザーに向けてプロモートしてしまうという事件が発生している²⁷。

また、米国の著名なシンクタンクである大西洋評議会(Atlantic Council)のDFRLab(デジタル・フォレンジック・リサーチ・ラボ)が発表した2025年6月の調査によると、Grokはイスラエルとイランの紛争に関連するファクトチェックにおいて、極めて深刻な欠陥を露呈した²⁸。

DFRLabの分析によれば、AIによって生成された架空の「空港破壊動画」について検証を求められた際、Grokは同じ数分間のうちに「破壊は事実ではない」と「攻撃による被害を確認した」という完全に矛盾する回答を繰り返し提示した²⁸。さらにはAI生成動画を「本物の映像のようだ」と誤認し、攻撃を受けた空港をバイルート、ガザ、テヘランなどと誤って特定するケースが多数確認されたのである²⁸。また、「中国が軍用輸送機をテヘランに派遣した」というSNS上の偽情報に対しても、事実であると誤って裏書きをしてしまった²⁸。

これらの事実は、リアルタイムのSNSデータへの直接アクセスが、最新情報をいち早く察知する強力な武器となる一方で、プラットフォーム上に蔓延するディープフェイク、プロパガンダ、ボットによる情報操作をフィルタリングできずに「事実」として推論の基礎に取り込んでしまうという致命的な脆弱性を孕んでいることを示している⁹。

ニューヨーク大学の名誉教授であり、著名なAI研究者であるゲイリー・マーカス(Gary Marcus)や、神経科学者のカール・フリストン(Karl Friston)が指摘するように、現在のLLMは根本的に言語上の「パターンマッチング」の域を出ていない³⁰。彼らは物理法則や因果関係の真の理解(グラウンデッド・ワールドモデル)を持っていないため、自身の予測の不確実性を正確に測定できず、「自身が何を知らないかを知らない」という決定的な弱点を抱えているのである³⁰。

6. インテリジェンスと自律型兵器: 軍事AIの次なるフェーズ

Grokの予測的中という出来事は、それが確率論的偶然であったとしても、インテリジェンス(諜報)と軍事意思決定の分野に計り知れない衝撃を与え、テクノロジーの軍事利用をさらに加速させる触媒となった。

LLMが膨大な公開情報(OSINT)を人間には不可能な速度で統合し、極めて高い精度で状況認識(Situational Awareness)と予測モデルを構築できる能力は、すでに実戦レベルで投入されている²。イスラエル軍はすでに「Lavender」や「The Gospel」といったAIターゲティングシステムを用いて、膨大なデータから攻撃目標を自動生成し、作戦のテンポを劇的に引き上げている³³。今回、Geminiがエルサレム・ポスト紙のテストで見たような「ステルス機の運用効率を考慮して夜間攻撃を予測する」といった戦術的分析や、Grokが示した「外交日程の空白期間の特定」は、まさに情報機関のアナリストが日常的に行っている作業の高度な自動化に他ならない⁷。

さらに、AIの役割は、単なる情報分析(アナリティクス)から、自律的に行動を計画し実行する「エージェントAI(Agentic AI)」へと移行しつつある³⁵。地政学の文脈においては、AIが公開情報を監視して脅威を予測するだけでなく、予測された脅威に対して自動的にサイバー攻撃の防御壁を展開したり、偽情報キャンペーンに対するカウンターナラティブを自動生成したり、さらには自律型サイバー兵器による反撃を行う段階へと踏み込んでいる³⁵。専門家の予測では、2040年代前半までにはNATO加盟国が完全な自律型攻撃サイバー作戦を公認する可能性が高いとされている³⁸。

このようなシステムを、国家の存亡を左右するような地政学的判断や軍事意思決定の中枢に過度に依存させることは、極めて大きなリスクを伴う。AIのハルシネーションや、敵対国によるデータ・ポイズニング(学習データの意図的な汚染)が、人間の介入を待たずに物理的な軍事衝突(キネティック・エスカレーション)を引き起こす「フラッシュ・クラッシュ」のような事態が懸念されている³⁴。

結論: AIによる「予言」が投げかけるもの

2026年2月28日の米国とイスラエルによるイラン攻撃をGrokが事前に「ピンポイントで予測した」というエルサレム・ポスト紙の報道は、AIテクノロジーが地政学的な情報空間においていかに強大な存在感を持つに至ったかを象徴する歴史的なマイルストーンである⁵。

この出来事は、以下の3つの重要な洞察を我々に提示している。

第一に、AIによるOSINT(公開情報)統合能力の劇的な成熟である。断片的な外交スケジュール、政治家の発言、部隊の移動といった公開情報から、国家の意思決定のタイミングを高い精度で推論する能力は、もはや国家の機密情報機関だけのものではなく、一般にアクセス可能な商用LLMの手の中にある¹⁵。特に、Xのようなリアルタイムの情報ストリームと直接結合したGrokのアプローチは、事象の兆候を捉える速度と、専門家の集合知を抽出する能力において、静的な事前学習に頼る従来のモデルに対する明確な優位性を示した⁹。

第二に、「人工的な確実性」に対する強い警戒の必要性である。LLMは圧力をかけられると、自らの不確実性を隠蔽し、最もらしい回答を生成する構造的なバイアスを持つ⁵。Grokの「予測的中」は、卓越したパターン認識能力と、危機のピーク時における極めて限定された確率的ウィンドウが偶然重なり合った結果(確率論的収束)であり、これを神託のような絶対的な「予知能力」と誤認してはなら

ない⁸。SNS特有の確証バイアスやエコーチェンバーが、この「偶然の成功」を過大に増幅させている側面を冷静に見極める必要がある⁵。

第三に、偽情報と情報操作に対する構造的な脆弱性である。Grokが過去に架空の攻撃ニュースを生成し、実際の紛争下でのファクトチェックにおいて矛盾した回答やハルシネーションを繰り返した事例が示すように²⁷、未検証のリアルタイムデータへの過度な依存は諸刃の剣である。世界が多極化し、ディープフェイクを用いた情報戦(インフォメーション・オペレーション)が激化する中で³⁵、AIの出力する「もっともらしい分析」を無批判に受け入れることは、社会全体、ひいては軍事的な意思決定プロセスを致命的な誤謬へと導くリスクを伴う。

イーロン・マスク氏の「未来の予測こそが、知性の最良の尺度である」という言葉は、AIの究極の目標を的確に表現している⁸。しかし、その「知性」が幻覚と事実を厳密に区別し、真の因果関係を理解し、自らの限界を正確に認識できるようになるまでは、AIの予測は絶対的な指針ではなく、無数の可能性の中から浮かび上がった「ひとつの確率の影」として扱われるべきである。軍事とインテリジェンスの領域においてAIが不可欠な存在となりつつある今、その出力結果の背後にあるメカニズムと偏向を深く理解することの重要性は、人類の歴史上かつてなく高まっていると言えるだろう。

引用文献

1. 2026 Israeli–United States strikes on Iran - Wikipedia, 3月 1, 2026にアクセス、
https://en.wikipedia.org/wiki/2026_Israeli%E2%80%93United_States_strikes_on_Iran
2. Artificial intelligence on the battlefield in 2025 | The Jerusalem Post, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.jpost.com/defense-and-tech/article-861611>
3. "Beginning of historic shift in Middle East:" Jonathan Conricus, former IDF spokesperson, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.aninews.in/news/world/middle-east/beginning-of-historic-shift-in-middle-east-jonathan-conricus-former-idf-spokesperson20260228173508>
4. U.S. Launches Operation Epic Fury to Eliminate Iran's Nuclear and, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.fddaction.org/policy-alerts/2026/02/28/policy-alert-u-s-launches-operation-epic-fury-to-eliminate-irans-nuclear-and-missile-threats/>
5. Grok predicted when Israel, US would strike Iran | The Jerusalem Post, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.jpost.com/middle-east/iran-news/article-888274>
6. AI for war forecast: Did Grok really predict the exact date of US attack, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://english.dhanamonline.com/technology/ai-for-war-forecast-did-grok-really-predict-the-exact-date-of-us-attack-on-iran-9002838>
7. AI forecasts possible US strike on Iran using public data, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.jpost.com/middle-east/iran-news/article-887917>
8. Grok's Date Call and the Day War Came - Atlantic Post, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://atlanticpostng.com/xais-grok-predicted-the-date-what-that-means-for-ai-intelligence-and-war/>
9. Can Grok Access X Posts in Real Time? Data Scope and Update, 3月 1, 2026にアク

セス、

<https://www.datastudios.org/post/can-grok-access-x-posts-in-real-time-data-scoped-and-update-speed>

10. Iran's Conflict With Israel and the United States - CFR.org, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.cfr.org/global-conflict-tracker/conflict/confrontation-between-united-states-and-iran>
11. Sam Altman vs Elon Musk: Why OpenAI's CEO says space-based data centres won't matter this decade, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://indianexpress.com/article/technology/artificial-intelligence/sam-altman-elon-musk-space-data-centres-10543749/>
12. US-Iran nuclear talks to be held in Geneva on February 26, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.aninews.in/news/world/us/us-iran-nuclear-talks-to-be-held-in-geneva-on-february-2620260223012039>
13. Trump news at a glance: No deal reached in Iran talks as potential for US attack looms, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.theguardian.com/us-news/2026/feb/26/trump-news-at-a-glance-briefing-latest-updates>
14. U.S., Iran complete round of talks as Trump weighs diplomacy against strikes, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.washingtonpost.com/world/2026/02/26/iran-nuclear-talks-trump-strikes-geneva-oman/>
15. AI Models Pinpoint Exact Dates for US Strike on Iran - JFeed, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.jfeed.com/middleeast/ai-predicts-us-iran-strike>
16. Iran enters critical nuclear talks with US insisting deal is within reach, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.theguardian.com/world/2026/feb/25/us-iran-nuclear-talks-critical-stage-trump>
17. Elon Musk's Grok AI Chatbot Predicted Exact Date of Strikes on Iran, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.breitbart.com/tech/2026/02/28/elon-musks-grok-ai-chatbot-predicted-exact-date-of-strikes-on-iran/>
18. How AI is Changing OSINT: Investigating X Accounts with Grok, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://netwatchglobal.com/blogs/how-ai-is-changing-osint-investigating-x-accounts-with-grok>
19. Real-Time AI Insights with Grok by xAI - Techify Solutions, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://techifysolutions.com/blog/real-time-ai-insights-with-grok/>
20. GROKINT – Using Grok AI for X OSINT - Joel Latto, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://joellatto.com/2025/08/13/grokint-using-grok-ai-for-x-osint/>
21. How to Use Grok AI: Real-Time Insights from X at Your Fingertips, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://shadhinlab.com/how-to-use-grok-ai/>
22. X(旧Twitter)で話題のおもしろ画像や動画 - Yahoo!リアルタイム検索, 3月 1, 2026にアクセス、
https://search.yahoo.co.jp/realtime/search/tweet/2027836581038465028?detail=1&ifr=tl_quotedtw&rkf=1

23. Elon Musk's xAI sends 'throw Anthropic' message to 'angry' Pentagon, 3月 1, 2026
にアクセス、
<https://timesofindia.indiatimes.com/technology/tech-news/elon-musks-xai-sends-throw-anthropic-message-to-angry-pentagon-says-we-will-/articleshow/128749853.cms>
24. Hegseth warns Anthropic to let the military use the company's AI tech as it sees fit, AP sources say, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://apnews.com/article/anthropic-hegseth-ai-pentagon-military-3d86c9296fe953ec0591fcde6a613aba>
25. 'Legally unsound, dangerous precedent': Who said what in Trump-Anthropic AI feud, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://www.hindustantimes.com/world-news/us-news/anthropic-ai-donald-trump-fued-claude-who-said-what-autonomous-weapons-mass-surveillance-dario-amodei-news-101772247147057.html>
26. Grok AI \$40K Bitcoin Price Prediction: Why Analysts Say It's Too, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://247wallst.com/investing/2026/02/28/grok-ai-40k-bitcoin-price-prediction-why-analysts-say-its-too-bearish/>
27. X's AI chatbot Grok made up a fake trending headline about Iran, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://mashable.com/article/elon-musk-x-twitter-ai-chatbot-grok-fake-news-trending-explore>
28. Grok shows 'flaws' in fact-checking Israel-Iran war: study | Arab News, 3月 1, 2026
にアクセス、<https://www.arabnews.com/node/2605704/middle-east>
29. Grok struggles with fact-checking amid Israel-Iran war - DFRLab, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://dfrlab.org/2025/06/24/grok-struggles-with-fact-checking-amid-israel-iran-war/>
30. What Yann LeCun is Missing: Karl Friston and Gary Marcus on, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://medium.com/aimonks/what-yann-lecun-is-missing-karl-friston-and-gary-marcus-on-uncertainty-agency-and-the-371fa0810746>
31. Sitemap - 2025 - Marcus on AI, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://garymarcus.substack.com/sitemap/2025>
32. AI as an Analytic Force Multiplier: Opportunities in ... - Intelligence Info, 3月 1, 2026
にアクセス、
<https://www.intelligenceinfo.org/ai-as-an-analytic-force-multiplier-opportunities-in-intelligence-agencies/>
33. Artificial Intelligence in Contemporary Peacekeeping Operations, 3月 1, 2026にアクセス、
https://dkiapcss.edu/nexus_articles/artificial-intelligence-in-contemporary-peace-keeping-operations/
34. Algorithmic targeting in the Iranian-Israeli confrontation, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://f1000research.com/articles/14-1200>
35. AI-Driven Cyber Threats and Risks in 2026 – Agentic AI ... - Debug, 3月 1, 2026にア

クセス、

<https://debuglies.com/2026/02/05/geopolitical-osint-threat-assessment-report-gotar-ai-driven-cyber-threats-and-risks-in-2026-agentic-ai-ransomware-apt-convergence-and-geopolitical-escalation-vectors/>

36. Fortinet CISO's 2026 cybersecurity predictions: Artificial intelligence, 3月 1, 2026
にアクセス、

<https://kbi.media/fortinet-cisos-2026-cybersecurity-predictions-artificial-intelligence-geopolitics-and-the-new-era-of-resilience/>

37. Eight ways AI will shape geopolitics in 2026 - Atlantic Council, 3月 1, 2026にアクセス、

<https://www.atlanticcouncil.org/dispatches/eight-ways-ai-will-shape-geopolitics-in-2026/>

38. Wave 5: Security and Geopolitics - Longitudinal Expert AI Panel, 3月 1, 2026にアクセス、
<https://leap.forecastingresearch.org/reports/wave5>